

「新之助」生育速報（収穫期対策）

令和 8 年 9 月 2 日
村上農業普及指導センター

～刈り遅れ注意！～

適期収穫で胴割粒の発生を防止しよう！

1 現在の生育状況

- 管内の平均出穂期は8月 10 日で、前年より2日、平年より4日程度早まった。
（平年：8月 14 日）
- 適切な穂肥対応等により、出穂後の葉色は指標値より濃く推移している。
- 出穂期以降高温傾向が続いており、収穫時期は平年より早まる見込み。
- 登熟期間の高温により、胴割粒の発生リスクが高まっている。
- 一部ほ場で穂いもちや紋枯病の発生が見られる。

【管内定点調査ほ】

調査場所	田植日 (前年差)	出穂期 (前年差)	出穂期葉色 (前年差)	出穂期+15 葉色 (前年差)
村上市岩沢	5/24 (+3)	8/12 (±0)	35.7 (+0.7)	34.9 (-1.4)
村上市牛屋	5/15 (±0)	8/8 (-3)	35.2 (+0.3)	33.3 (+0.1)
指標値	—	—	34.0	31.0

2 今後の技術対策

◎収穫対応

- ・高温登熟年の収穫時期は、出穂期後積算温度 1,000℃が目安です。収穫期近くになったら、必ずほ場で籾の黄化割合（85％）を確認し、判断しましょう。茎葉や枝梗の色は栽培条件で変わるので、籾の色で判断するようにしましょう。
- ・今後も高温傾向が続く場合、収穫期がさらに早まることが予想されます。早めの準備、早めの収穫開始を心がけ、胴割粒発生につながる刈遅れは絶対に避けましょう。またコシヒカリと収穫が競合する時は、新之助の収穫を優先させましょう。
- ・穂いもちの発生等により株内の登熟ばらつきが大きくなると、刈り遅れによる胴割粒の発生を助長します。適期収穫、色彩選別機の活用（青未熟粒等の除去）や丁寧な粒選で対応しましょう。

※高温登熟年：出穂期5～24 日後の 20 日間の平均気温がおおむね 26℃を超える年を指し、基部未熟粒の発生が多くなり、整粒歩合の低下を招きやすくなります。
9/1 現在、平均出穂期から 24 日を経過していませんが、今後の気象予報等を考慮し、本資料においては高温登熟年と推定しています。

積算温度による収穫適期のめやす(9月1日現在)

出穂期	収穫開始のめやす (通常年)	収穫開始のめやす (高温登熟年)
8月8日	9月21日	9月18日
8月10日	9月24日	9月21日
8月12日	9月27日	9月23日
8月15日	10月1日	9月28日

※出穂期以降の平均気温(気象観測地点:村上)により積算温度を計算。

※収穫開始のめやす(通常年)は、平均積算気温 1050℃で算定。収穫開始のめやす(高温登熟年)は、平均積算気温 1000℃で算定。

◎収穫期頃のフェーン・異常高温の対応

- ・籾水分が22%まで低下した後に、フェーン・異常高温により飽差※が6gを超えると胴割粒の発生リスクが急激に高まります。飽差情報で高飽差が確認された場合は、速やかに収穫作業を実施しましょう。

※飽差とは、1 m³の空気中に、あと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す数値です。値が高いほど空気が乾燥したことになります。

☆最新の飽差情報は、新潟県農林水産部農産園芸課 HP「令和8年産水稻生育状況・技術対策対策速報」のページで確認できます。

☆最新の積算気温早見表は、村上地域振興局農林振興部農業振興担当 HP「新着情報」のページで確認できます。

◎乾燥・調製の対応

- ・胴割粒の発生を防止するため、毎時乾減水分は0.8%を超えないようにしましょう。なおフェーン・異常高温で立毛胴割れの発生が懸念される場合は、毎時乾減水分を0.5%以下にしましょう。
- ・フェーン等により収穫時の籾水分が低い場合、籾水分が低くてもバラツキが大きい可能性があります。張り込み後に軽く通風循環した後、半日程度貯留して水分ムラを解消してから加熱乾燥しましょう。乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合は、それを活用しましょう。
- ・仕上げ水分は、14.0～15.0%です。穀温が高いと水分測定値は高く出ますので、停止水分は高めに設定し、その後、水分計でこまめに確認しつつ、過乾燥にならないように仕上げましょう。
- ・必ず1.9mm以上のふるい目を用い、未熟粒やくず米を確実に除去しましょう。必要に応じて色彩選別機を活用し、整粒歩合70%以上に仕上げましょう。

まだまだ暑い日が続きます。
適度に水分と休息をとり、熱中症と農作業事故
には十分注意しましょう！

